

**・中国の家禽に鳥インフルエンザが発生**

国際獣疫事務局(OIE)の報告によれば、中国チベット自治区のラサで家禽に鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)の流行が発生しています(検疫所HP 22011-12-16)。また、香港衛生当局は九龍半島にある長沙湾卸売市場でH5N1型に感染した家禽が発見されたことを発表しました(Pro MED 2011-12-21)。市場の閉鎖とともに約2万羽の家禽の殺処分が行われました。

中国ではH5N1型の患者が既に40名発生しています。今年は患者報告がありませんが、家禽の間での流行が続いている状況ですので、同国滞在中は生きた家禽を販売している市場などに立ち入らないように注意してください。

**・東南アジアでのデング熱流行**

WHO西太平洋事務局長の発表によれば、東南アジア諸国でのデング熱の流行は次第に鎮静化しています(WHO Western Pacific Region 2011-12-20)。ほとんどの国では昨年に比べて患者数が減少している模様です。

なお、インドネシア、シンガポール、マレーシア南部など赤道に近い地域では、これから雨期が始まります。デング熱の流行が活発になることが予想されますので、蚊に刺されない対策を充分にとってください。

**・全世界のポリオ流行状況**

Global Polio Eradication Initiative の報告によれば、2011年は12月中旬までに全世界で571名のポリオ患者が発生しました(<http://www.polioeradication.org/>)。昨年同期の674名に比べてやや減少しています。国別ではパキスタンが173名と最も多く、次はチャドの125名でした。2011年は中国のシンチャンウイグル自治区でポリオの集団発生が occurred。最近も2名の患者が確認されており、総数は20名となっています(Pro MED 2011-10-23)。

**・麻疹の海外感染例が増加**

国立感染症研究所の報告によれば、2011年は12月中旬までに429名の麻疹患者が発生しました。このうち29名は海外での感染例です(感染研・感染症情報センターHP 2011-12-20)。感染したと推定される国には、フィリピンやインドネシアなど東南アジア諸国とともに、フランスが多くみられます。2011年はフランスで麻疹の大流行が発生しており、10月までに患者数は1万5000人近くに達しました(Europe CDC 2011-12-15)。東南アジア諸国でも麻疹の流行は常在しています。

日本国内では10歳代の学生への麻疹ワクチン接種が進み、この世代の麻疹に対する抵抗力は高くなっています。その一方で20歳~30歳代については、十分な抵抗力のないことが明らかになっており、

この世代が海外の流行地域に滞在する前には麻疹ワクチンの追加接種を受けておくことを推奨します。

#### ・米国でのウエストナイル熱の流行状況

米国CDCの報告によれば、2011年は12月中旬までに667名のウエストナイル熱患者が発生しました(米国CDC 2011-12-13)。このうち42名が死亡しています。感染地域は全米に及んでおり、カリフォルニア州での発生が154名と最多です。2010年は患者数が1021名でしたが、これに比べると今年は少なくなっています。ウエストナイル熱は蚊(イエカなど)に媒介される感染症で、発熱や発疹などの症状をおこします。高齢者が感染すると脳炎などを併発し、重症化することがあります。蚊が多くなる夏季に米国に滞在する方は、蚊に刺されない対策をとるようにしてください。